

日本機能水学会の設立と展望

日本機能水学会事務局長
堀田 国元

電解水の科学的・技術的および社会的基盤の向上と関係研究会などの協力によって日本機能水学会が誕生した。学会の目的は、「機能水の機能、製造と有効利用に関する基礎的応用的研究および発表・討論を展開し、その学術的成果を公表する」ことである。学会活動を通じて電解水（当面の中心）のみならず機能水全体の科学的進歩を促し、新しい学際的研究領域を発展させるとともに、科学的根拠に基づいた正しい知識を蓄積し、普及することによって機能水の社会的貢献（有効利用）に寄与していくことが機能水学会の大きな使命であろう。

1. 設立の経緯

健康・衛生・環境の増進・改善は21世紀における重要なテーマであり、そのためにヒトや動植物、環境にやさしく効果的な新しい資材や技術の開発・導入が望まれている。低濃度で効果を発揮し、ヒトにも環境にもやさしいことが実証されつつある機能水（主として電解水）は、さまざまな分野において多様かつ多大に貢献できる（潜在）能力をもっており、その有効利用は時代の要請となっていると思われる。そのためには、機能水の科学的・技術的および社会的基盤の充実が不可欠である。

機能水の歴史はまだ浅く、機能水という言葉が生まれたのは十数年前のことである。当初は、機能水の科学的な定義はされておらず、概念も科学的に吟味された内容をもっているとは言いがたかった。新味を漂わせる言葉の響きだけで一人歩きを始めたといっても過言でない。今日でも、

機能水として括られている水は各種あるものの、驚異の水や不思議な水に留まっているものが多い。新しく生まれた研究対象や領域が健全に発展していくためには、いろいろな条件が必要であるが、科学的な研究の発表と討論をオープンな場において行うことは不可欠の要素であり、そういう場をもった機能水は電解水が恐らく初めてであったと思われる。

1993～94年に(財)機能水研究振興財団、(株)機能水研究所、アクア酸化水研究会（後に機能水医療研究会）、ウォーター研究会、歯科領域機能水研究会（現日本口腔機能水学会）、あるいはアルカリイオン整水器検討委員会などの電解水の研究を主目的とする組織が次々に発足した。電解水（酸性電解水やアルカリイオン水など）に関するオープンな研究討論は、これらの組織による各種のセミナーやシンポジウムなどにおいて始まり、今日まで続けられてきた。その間に、酸性電解水に関しては、広範な病原

学会設立準備に寄与した関係者

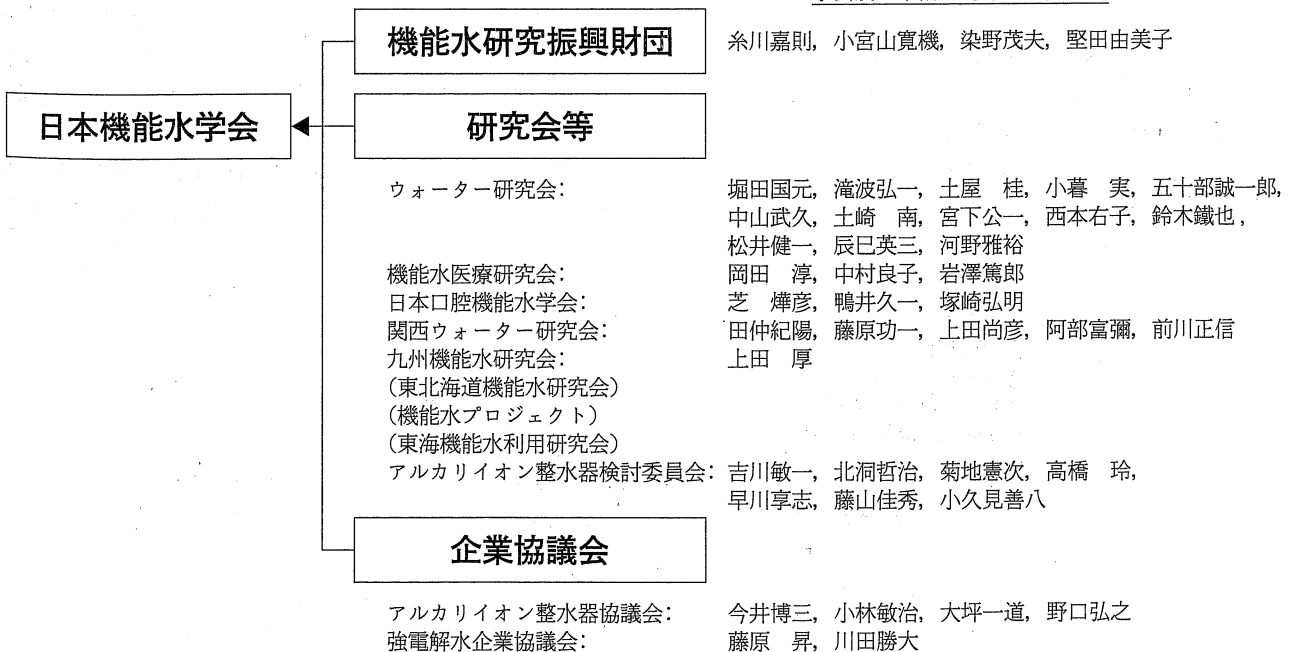


図1 日本機能水学会の設立準備に寄与した組織と関係者